

2023 年度<京都北部ブロックの今年度の振り返りとその活動報告として

2023/11/26 トマス頭島光神父

◆宣教司牧活動の現況

今年度の京都北部ブロックにおける宣教司牧活動は、今年5月まではコロナ禍のなかであって、なかなか計画通りにいかなかったようである。それでも、このことは単にコロナ禍による活動の停滞ということに起因するのではなく、むしろ信徒の高齢教会役員不足等によるマンパワーの低下及び教会全体の活力の減退が、その要因と思われる。その結果として役員交代ができず、同じ人間が再び事に当たることになる。同じメンバーで継続するという事態は変わっていない。また各地区では30代から40代といった比較的、若い世代の人材、及び家族の教会離れがある。彼らの動向が、ある意味、丹後教会全体の衰退や人員減退の一つの原因となっている。およそ、この半年のミサ参加状況を見ても、それは明らかである。これは丹後地区だけの現象ではなく、西舞鶴から東舞鶴、さらに福知山、綾部地区でも事情は同じである。

◆教育部等の活動

それでも、今年、行われた四旬節の黙想会、また復活祭でのお祝い等、何とか信徒大勢が聖堂に集まることはあった。コロナ禍に対する不安の解消が大きい。飲食の伴うパーティの開催は活気のある程度とり戻した形である。また教育部では、子どもたちを集め、デイ・キャンプを開催(10月28日)。大宮礼拝堂では新規の試み「教会ピアノ」の開催によって、多くの未信者たちを教会に集めることに成功した。この集いは4月23日に第1回目が解され、6月に2回目。そして11月は4日と5日の土日の2日間開催であった。いずれも大盛況であった。多い時には延べ80名を超えた。教会の外に向けた活動としては大いに評価できます。

◆国際協力委員会

ここでは委員会メンバーであるフィリピーナ信徒協力者(日本人含む)数名と集まり話し合いから始めました。お茶会やフィリピン料理を囲んでの集いなど

を展開して、日本人信徒との交流を深めました。また、その他、ミサでの侍者奉仕や朗読奉仕(日本語)を実践。さらに教育部との連携で、デイ・キャンプへの自主的な参加、応援協力もできた。今後は、日本人と共に多様な交わりや異文化の共有を目指して活動を広げたい。そのために教会に来られないフィリピーナと連絡を取り合い、共同体づくりを進めます。教会行事のお知らせやミサの時間の共有等、様々な情報発信によって教会での集いや日本語ミサへの参加を促していきたい。

◆典礼部の活動

典礼部では新典礼によるミサ曲の練習から始まった。コロナ禍終焉を機に、歌ミサを各教会、聖堂、礼拝堂で週日でも実践していった。かくして、11月19日、午後一時半から丹後教会評議会主催の典礼研修会を開催。福知山、西舞鶴からも典礼関係者を集め共に加悦教会に集い、模擬ミサを行う。王たるキリストの典礼を使って初めからすべてを歌いました。その他、具体的な侍者の動きや朗読者等の動きも確認した。奉納行列のあり方も見直し、祭壇上から始まる捧げものの箇所も歌った。祭日の主日ミサやクリスマス、そして復活祭等の時には、主にこうした全曲歌ミサにしていきたい。

◆福音化委員会の活動

福音宣教部ではまず聖書を知ることから始めるために、月一回、月末最後の土曜日の午後一時から宮津教会ルラブ館にて「聖書を学ぶ会」を開催している。11月までの段階でまだ三回目でした。課題は「イエスとは誰か」。イエス様というお方をまず身近に感じることに、これを福音宣教の基本としたい。また隔週の火曜日午後から求道者勉強会がこの9月から始まった。今現在一人が勉強中である。ここにも是非力を入れて行きたい。

◆その他のこと

西舞鶴教会には、レデンプトル会舞鶴修道院があり、丹後の諸聖堂、また京都北部全体の宣教司牧活動の拠点として司祭が常駐する場でもある。今後それは変わらない。そこで宣教司牧体制作りの一環としてインターネットを導入。西舞鶴教会のHP

を立ち上げた。今後は宮津聖堂の HP も立ち上げ、拠点化を図りたい。また西にはリゴリアンホール、宮津にはルラブ館という二つの信徒にとっての活動拠点がある。これらを有効に活用することが今後の課題となる。現に、リゴリアンホールではすでに貸館としての利用も考慮がなされ、実際に一度音楽会が行われた。これを整備し整えていきたい。またルラブ館は、宮津聖堂の重要文化財指定を契機に、情報発信基地として、ますます重要な施設となろう。今後、聖堂の整備、修復が急がれる。

以上

教区評議会報告 洛北ブロック

ブロックの振り返りは12月16日に行う予定

今回の報告は、9月16日、ブロック会議議事録より引用のみ

① 北白川

- ・ コロナ禍で中止していた行事を再開する。バザーの代わりに10月8日よりフリーマーケット（不定期）を開催、毎主日ミサ前に聖書の分かち合い・ミサ後にコーヒーサンデーを実施、9月17日敬老ミサ・10月22日ヴィアトル祭を予定

② 高野

- ・ 9月17日敬老の日のミサを行う。参加者にお茶を用意
- ・ ミサが行われてない日曜日は、自主的に祈りの集いを実施

③ 小山

- ・ サポートミーティング、評議会を2カ月毎に開催して皆の意見を取り上げている。
- ・ 第5日曜日は集会祭儀を実施して、分かち合いを実施
- ・ 敬老の日のミサを予定。クリスマスのミサにはコーラスグループに歌ってもらう。

④ 西陣

- ・ ワールドユース・デー報告会を開催。秋の慰霊祭を実施する。
- ・ 2か月に1回、ヨゼフの会を再開
- ・ クリスマスに洗礼3名（小学生2、幼児1）を予定
- ・ 西陣ニュースを配付

⑤ 衣笠

- ・ 提案事項は特になし。
- ・ 7月16日主日ミサより、新ミサ曲に移行した。9月17日に敬老ミサを実施、75歳以上の方に記念品を贈る。茶話会は行わない。
- ・ 11月23日バザーを開催し、地域との触れ合いの場を目指す。規模は縮小し、時間も短縮する。
- ・ 12月23日(土)、4年ぶりにクリスマス・コンサートを開催する。

⑥ 教育部会より

- ・ 11月12日(日)ブロック各教会の小学生を対象として七五三のお祝を行う。北白川で10:30～ミサとその後に聖書勉強とイベントを企画中

2023年度洛東ブロック宣教司牧計画 振り返り

10月26日洛東ブロック会議での振り返り

長期計画Ⅰ ブロック全体に開かれた分かち合いの場を設け、小教区間のつながりを深めてゆく。		
振り返り	年間計画1 中高生・青年の集いを行う。 ブロック行事として、合同教育部会主催10/29に山科教会にて実施。ご指導は菅原神父様。 河原町教会から10名(うち1名は長岡教会)、伏見教会から1名、山科教会から7名で、合計17名の中高生が参加した。	
	年間計画2 「いのち・平和・環境の集い」(分かち合い)を行う。 教区主催の集いへの参加を呼び掛けた他、引き続き各小教区での取り組みを検討することとした。 山科教会では、11/26(日)ミサ後に、信徒で森林と人間の共生を研究してこられた山田様から世界の森林と日本の関係についてご講演をいただいた。	
長期計画Ⅱ 各小教区固有の学び、祈り、活動(地域との交わり、国際協力など)、交流行事をブロック共同体の福音宣教活動として共有する。		
振り返り	年間計画1 各小教区で四旬節黙想会を計画し、ブロック内に知らせる。 2023年度より各小教区での開催とし、3/11 河原町教会、3/19伏見教会、2/26桃山教会、3/12山科教会と、それぞれにて開催することができた。	
	年間計画2 「病者の日」(ミサ)を行う。 洛東ブロック4教会で共同祈願を作成し、開催は各小教区とし、2/12河原町教会、2/5伏見教会、2/12桃山教会、2/12山科教会と、それぞれにて開催することができた。	
振り返り	年間計画3 国際交流を行う。 河原町 英語ミサの参加者も減少し、実態把握が難しい状況が続いている。 伏見 ナン神父様が伏見教会に住まれ、ベトナムの人たちと共に捧げるミサの他、ベトナム語のミサが月に3回行われ(ナン神父様から、第5土曜日についてもベトナム語のミサを行いたいとの意向。)結婚講座等も行なわれることとなり、場所の使用等でナン神父様・ベトナムの方達との意思疎通・コミュニケーションが必要と考えているところである。 桃山 「折り紙の集い」についての情報をブロック内の各教会に宣伝、参加を呼び掛けた。実際には他教会からの参加は無かったが、行事(取り組み)の情報として共有。隔月で継続している。 山科 具体的な活動は実施できていない。今後、偶数月の第3日曜日のミサ後に茶話会形式の交流会を計画、実施したい。	
	長期計画Ⅲ ブロック内小教区の多様性を活かしながら、ブロック全体として取り組める福音宣教の可能性を模索する。	
	振り返り	年間計画1 平和旬間行事を行う。 河原町 「戦争と平和写真展」が河原町教会で行われたが、主催は京都教区カトリック正義と平和協議会。 伏見 平和旬間でのミサにおいて、平和を祈り、共同祈願を行った。 桃山 平和旬間でのミサにおいて、平和を祈った。 山科 8/4比叡山宗教サミットに参加。8/6集会祭儀で「平和を祈願」し、映画「ヒロシマへの誓いサーロー節子とともに」を鑑賞、分かち合い、8/19中澤英彦先生を迎え研修会「ウクライナについて学ぶ」を行った。
		年間計画2 「防災の日」を設ける。 河原町 本年は特に取り組みはなし。 伏見 三方向に逃げ道は有り、避難訓練・消防設備の点検等を今後行いたい。 桃山 9/3最近多発する地震の訓練を行い、その後課題の話し合いを行った。意識づけ、災害用備蓄などについて見直すきっかけとなった。 山科 9/3ミサ後に、避難経路・消火器の設置場所の説明を行い、参加者に避難経路を確認してもらった。
年間計画3 「エコロジー」の取り組みを行う。 河原町 特に新たな取り組みはなし。 伏見 ゴミの回収は事業者扱いとなっており、ミサの際のゴミ回収(ゴミ箱)に新聞紙を使用するなどしている。また、継続して切手の回収、ピッチャーを使わない粉ミルクの使用などを心がけている。 桃山 特に新たな取り組みはなし。 山科 具体的な取り組みはできなかつた。引き続き取り組みを検討する。		
総評 コロナが5類移行し、小教区・ブロックの活動が復活してゆく1年となった。また、各小教区とも新しいミサの式次第の学びと定着に取り組んだ。2024年の年間計画については2024年2月のブロック会議で討議して決定する。従来ブロック会議は年4回開催していたが、2024年は年3回開催とする。ブロック会議が役員の負担になっているという声も出たので負担を軽減しながら、各小教区の自発的な福音宣教活動が充実してゆく1年としたい。		

2023 年度 京丹ブロック共同宣教司牧 短期計画の振り返り (2023.11.17)

2023 年度 京丹ブロック共同宣教司牧長期・短期計画 (2023.5.14 作成)

・長期計画

「地域に対して開かれた福音宣教する教会共同体となっていきたいと思います」

・短期計画

「あらゆるものはつながっている」という視点で「ともに歩む(シノドス)教会」の具体化を進めます。

(1) 小教区の枠を超えて、子供及び青少年の育成とすべての世代の信仰教育に取り組みます。

◎ホルヘ神父を中心に、ブロック教育部会の継続的な話し合いや、取り組みが進んでいる。

◎宣教司牧協力者のシスターポーリンを迎えてブロック合同で司牧依頼を話し合い、講座、福音の分かち合い、信徒からの個別相談などが実施されています。

(2) 小教区の枠を超えて、すべての信徒が教会共同体を「自分たちの家」のように感じ、誰もがつながっていることを忘れず行動します。

◎ブロック会議で充実した審議を重ねた京丹ブロック規約の策定、そして提出期限の延長申請も行いブロック短期計画を作成するなど、ともに歩むシノドスを実践出来たと思う。

◎ブロック司祭が居住の小教区のみ負担となっていた光熱水費などの生活費も審議を重ね、交通費、通信費と共にブロックすべての小教区で応分負担する事となった。

(3) 小教区の枠を超えて、信徒それぞれの生活の場でのキリストとのつながりを信徒間、社会で共有します。

◎京丹ブロックのホームページで、ミサ予定、一場神父の説教の配信などを行っている。

◎7月、10月と京丹ブロック合同ミサを実施する事が出来た。

◎集会祭儀について議論を重ね、司祭不在時以外には行わないミサの保証で合意した。

併せて集会祭儀式次第をブロック共通版として、新しいミサの典礼に則して作成した。

(4) コロナ禍での学びを活かし心を新たにして教会活動を進めて行きます。

◎一場神父による YouTube 配信「みことばの祭儀」がコロナ禍を契機に続けられブロック内で有効にシェアされている。

◎インターネットの WEB 会議や情報発信と情報共有は有効利用出来ていると思う、しかし一方ではインターネット環境が整っていない信徒への対応には課題が残る。

◎コロナ感染症5類移行後のミサや分かち合いなどの交流活動は、やはりとても嬉しく、とても大切だと感じました。

「総評」

ブロック短期計画作成時の議論ではコロナ禍での経験、いやコロナ禍での学びと文言についても活発な意見交換が行われ、ブロックとして充実した話し合いが出来たと思う。そして2023年度の短期計画の評価と課題をふまえ2024年度も上記の短期計画を継続する事と決議された。

山城ブロック 短期計画 振り返り

9月、11月に開催されたブロック会議で振り返りのための話し合いがされていなかったため、議事録から関連する内容を抽出しました。

ブロック短期計画

<短期①> ブロック国際協力部の更なる充実・発展を目指します。

宇治教会の毎月第一日曜 14時からの英語ミサのあと、今年秋から茶話会が定期的で開催されるようになり、すこしずつ以前の活気が戻りつつある。

<短期②> 青少年の育成への支援をします。

ブロックから 2023WYD への参加を呼び掛けたが、参加者がなかった

<短期③> 高齢化に対する取り組みを充実させます。

高齢化のため、コロナ以前のように毎週の主日のミサにあずかるのが困難であるとの理由で、隔週でのミサを希望する共同体が出てきた。

宇治教会では下履きからスリッパに履き替えるのがおぼつかない方が増えてきたので、一足制を導入し床材を張り替えた。結果は概ね好評

<短期④> 各教会広報とブロック広報について。

コロナ禍でブロック行事がなく、バザーなどの共同体単位での催しも取りやめた

共同体が多いのでブロック広報誌はブロック内の他教会の様子を知る重要な

ツールになっている。

2023年度滋賀ブロック宣教司牧計画

長期計画①

互いに理解を深め、兄弟姉妹的一致を自指し、聖霊に満たされた共同体を作っていきます。

短期計画①

- 2023年滋賀ブロック宣教司牧計画を教会内においてお知らせ等を活用し、信徒への周知に向けてとり組みます。
- 滋賀ブロックの行事(1 典礼研修会、2 安土セミナー、3 平和旬間ミサ、4 びわこウォーク、5、教会学校キャンプ)および主日のミサに各国コミュニティから多くの参加を自指して、教区の方針に基づいて1つの共同体を作ります。
- 教区・ブロック・小教区が主催する講座などを紹介し、また、日曜学校や日帰りブロック教会キャンプ等小中高生の教育や聖書の分かち合い・講座再開にも努力します。

長期計画②

日々の生活を通して全ての人にキリストの福音を述べ伝えていきましょう。

短期計画②

- 自然災害で被害を受けた方や貧しい(虐げられた)人々に対して、積極的な支援を継続して行っていきます。
- 各小教区が福音宣教についてシノドスの分かち合いなどを通して具体的な方法(教会の基本的な活動、病者の訪問など)、やり方を考え実行します。
- 初めて教会に来た方々に声をかけ、交わりの輪を広げます。

2024年度滋賀ブロック宣教司牧計画案

長期計画①

互いに理解を深め、兄弟姉妹的一致を自指し、聖霊に満たされた共同体を作っていきます。

短期計画①

- 2024年滋賀ブロック宣教司牧計画の信徒への周知に向けてとり組みます。
- 主日のミサ、および滋賀ブロックの行事(1 典礼研修会、2 安土セミナー、3 平和旬間ミサ、4 びわこウォーク、5 教会学校キャンプ)に、各国コミュニティから多くの参加を促し、教区の方針に基づいて1つの共同体を作ります。
- 教区・ブロック・小教区が主催する講座等の行事に参加し、聖書の分かち合い、教会学校やサマーキャンプ等の子供にとって魅力のある「小中高生の教育」の充実を図り、また、全ての信徒が神様の愛を感じられるように努めます。
- 高齢になり教会に来られなくなっている信徒のために、教会と繋がっている思いを持ち続けられる取り組みを考えていきます。

長期計画②

日々の生活を通して、全ての人にキリストの福音を述べ伝えていきましょう。

短期計画②

- 1) 自然災害や紛争などで被害を受けた方や貧しい（虐げられた）人々に対して、積極的な支援を継続して行っていきます。
- 2) 福音宣教について、各小教区が具体的な方法（教会の基本的な活動、病者の訪問や他ブロックとの交流等）を考え実行します。
- 3) シノドスのまとめに関わる人々が、より良いまとめを作っていけるよう、みんなでお祈りします。
- 4) 初めて教会に来た方々に声をかけ、神の愛の交わりの輪を広げます。

23年度の振り返り、実施状況

長期計画①

互いに理解を深め、兄弟姉妹的一致を自指し、聖霊に満たされた共同体を作っていきます。

短期計画①

- 1) 2023年滋賀ブロック宣教司牧計画を教会内においてお知らせ等を活用し、信徒への周知に向けてとり組みます。
- 2) 滋賀ブロックの行事（1 典礼研修会、2 安土セミナー、3 平和旬間ミサ、4 びわこウォーカーソン、5、教会学校キャンプ）および主日のミサに各国コミュニティから多くの参加を自指して、教区の方針に基づいて1つの共同体を作ります。
- 3) 教区・ブロック・小教区が主催する講座などを紹介し、また、日曜学校や日帰りブロック教会キャンプ等小中高生の教育や聖書の分かち合い・講座再開にも努力します。

【振り返り】

- 1) 年頭の教区総会において周知を図ったが、定期的な確認などができていなかった。
- 2) 滋賀ブロック行事については多数が参加した。小教区毎に行われた平和旬間ミサでは、祈りの寄せ書きや共同祈願を共有し、ブロックで心を合わせて祈願を行った。
- 3) 教区の講座や研修会に積極的に参加した。日曜学校の実施、聖書輪読会の実施等、様々な形で信仰教育に努めた。

長期計画②

日々の生活を通して全ての人にキリストの福音を述べ伝えていきましょう。

短期計画②

- 1) 自然災害で被害を受けた方や貧しい（虐げられた）人々に対して、積極的な支援を継続して行っていきます。
- 2) 各小教区が福音宣教についてシノドスの分かち合いなどを通して具体的な方法（教会の基本的な活動、病者の訪問など）、やり方を考え実行します。
- 3) 初めて教会に来た方々に声をかけ、交わりの輪を広げます。

【長期計画②、短期計画② 振り返り】

- 1) 地震災害や紛争地へ向けての募金活動、貧困地域への衣料等の送付を、継続的に実施した。
- 2) 小教区を挙げてシノドスについての話し合いを行い、とりまとめて教区へ報告を行った。継続してシノドスについて考えたい。また病者訪問等の活動を実施した。
- 3) 聖堂公開を再開して信徒以外の方を歓迎し、教会とカトリックの信仰を紹介した。また洗礼を受けた新たな

信徒や他小教区から転入してきた信徒を歓迎し、部会への所属等、教会の維持に貢献する新たな人材を獲得した。

【2023 年度総括】

- 滋賀ブロック宣教司牧計画については、通年での周知と定期的な確認、反省が必要である。
- シノドスについては、バチカンでの議論の結果を振り返り、信徒に求められる祈り、活動等を、小教区が一つとなって考え、実践していく必要がある。
- 現在の部会活動を振り返り、教会から遠ざかっている信徒や新しい信徒が、それぞれの立場や状況に応じて積極的に参加出来る体制、雰囲気づくりにさらに努力していく必要がある。
- コロナ以降、教会から遠のいておられる方が日本人共同体に多くみられるので、その方々へが教会へ来やすい環境を作ることが来年度の課題である。

2023 年度 奈良ブロック活動報告

実行委員会活動報告

2023 年度はコロナ感染がひとまず緩和される傾向にあるとは言え、まだ油断することはできない環境下にあつて、実行委員会の活動において大きな変化が見られました。

即ち、3 月度のブロック会議において、平和旬間イベント、ユスト高山右近の会実行委員会が廃止となりました。

実行委員会としては、開催するにあたり、コロナ感染対策を行った上、聖書講座委員会とウオーカソン委員会を開催することができました。

聖書講座

2023 年度は共に歩む教会（マタイ福音書による）、副題われらと共にいる神（インマヌエル）をテーマとし、4 月 22 日から 7 月 1 日まで月 1 回、奈良教会と八木教会で 4 回交互に講座を開催した。総参加者数は 248 名でした。久しぶりの対面方式で開催できました。

ウオーカソン

2022 年度コロナ禍のため、中止となりましたが、2023 年度は規模を縮小して実施しました。

奈良ブロック会議活動報告

ブロック会議において、最近では通常の協議事項以外に委員の方々から提案いただいた問題提起により、小教区での取り組みなど話し合う機会が増えました。1 月度は外国人の現状について、小教区から報告を受け、最近ではベトナム人が多くミサに参加している傾向が見られた。7 月度では、高齢化問題について、9 月度では、小教区宣教司牧短期計画、11 月度は、奈良県キリスト教連合会の今後の在り方について、各小教区による意見交換を行った。今後も小教区からの提案も含め、継続して問題提起に取り組むたいと考えています。

2023年三重北部ブロック宣教司牧実施計画書

2023年2月18日

<p>教区 優先課題</p>	<p>京都教区は、21世紀を迎え、次の5つを宣教の優先課題として取り組みます。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1.共同宣教司牧を推進して、福音宣教する教会共同体になっていきます。 2.滞日外国人の人々と連帯し、多国籍の教会共同体を作ります。 3.青少年の育成に力を入れます。 4.信徒の生涯養成と、信徒の奉仕職を充実させていきます。 5.「社会と共に歩む教会」として、社会の弱者と連帯し、社会の正義と平和の問題に取り組みます。 		
<p>長期計画 2018年～</p>	<ol style="list-style-type: none"> ①司祭誕生を目指し、小・中学生への信仰教育を充実する。 ②教会活動、青年部活動の活性化、中・高校生の教会活動への参加の強化策を策定。 <ul style="list-style-type: none"> ・教会活動に参加する人数を増やし、信徒全員が「一人一役」として係われる共同体作り。 ・多文化、国際協力、社会活動貢献。 ・青年部活動の発展 		
	<p>短期計画(ブロック)</p>	<p>担 当</p>	<p>実施状況 (2023/11/25記入)</p>
<p>長期計画 ①</p>	<p>短期計画① 侍者研修会 侍者研修会に向けて、司牧者チームで動作について確認する。</p>	<p>司牧者チーム 教育部 典礼部</p>	<p>8/5鈴鹿で小学生30名を対象に侍者研修会として勉強会とレクレーションを実施しました。また、サマーキャンプに於いても実施しました。</p>
	<p>短期計画② サマーキャンプ 7月23日(日)、24日(月)に実施する。</p>	<p>北部ブロック 教師会</p>	<p>「四日市市少年自然の家」で男子14名、女子9名(鈴鹿10、四日市12、桑名1)の計23名が参加しました。</p>
<p>①</p>	<p>短期計画③ 三重北部合同堅信式 11月12日(鈴鹿教会)：企画を行い、未受堅者に堅信を受けるよう呼び掛け、準備の勉強を実施する。</p>	<p>北部ブロック 司牧者 各教育部</p>	<p>四日市14名、鈴鹿11名の計25名が堅信の秘跡を受けました。</p>
	<p>短期計画④ ブロック交流会(巡礼) 5月28日：聖霊降臨日 青年、外国人信徒、日本人信徒の活動できる機会を増やせるように準備する。</p>	<p>鈴鹿教会</p>	<p>10/9宮津教会巡礼バスツアー実施。四日市48名、鈴鹿29名、桑名18名の計95名の参加がありました。うち中学生以下は9名でした。</p>
<p>長期計画 ②</p>	<p>短期計画⑤ 勉強会 各教会で実施している聖書等の勉強会をお互いに知らせ合い、勉強会に参加できる機会を増やす。</p>	<p>役員 司牧者チーム</p>	<p>実施できませんでした。</p>
	<p>短期計画⑥ 黙想会 各教会で実施する黙想会をお互いに知らせ合い参加できる機会を増やす。</p>		<p>桑名は2/19、四日市は3/12、鈴鹿は4/2に実施しました。合同での参加は実現できませんでした。</p>
<p>②</p>	<p>短期計画⑦ カテキズム養成講座 毎月の第3土曜日桑名教会に開催する。 (9時から：タガログ語、14時から：日本語)</p>		<p>6-8月を除く毎月計画通りの第3週の土曜日に実施していただきました。日本人が7名、フィリピン人が5名でした。</p>
<p>(注) 新型コロナウイルス感染の状況によって中止、変更がある。</p>			

2023年度三重南部ブロック長期・短期計画 ふりかえり

1. 長期計画（2019年～2023年）

- (1) キリスト者として、日々の生活に喜びをもって地域社会に証ししよう。
- (2) ☒文化共生共同体を作ろう。
- (3) 子供達の為の生涯教育に努めよう。

2. 短期計画 2023年（長期計画を基に計画）

- (1) キリスト者として、日々の生活に喜びをもって地域社会に証ししよう。

①☒地域社会への証し

- ・三重ダルクとの交流→津教会
- ・三重ダルクとの交流→久居教会は毎年バザーの売り上げ金を寄付
- ・名張教会のご近所へ聖ヘレナ（8/20）のミサとバーベキューへのお誘い

②平和旬間一各教会で何をするか決定。

- ・津・久居教会：映画”一人になる”を信徒の皆さんと鑑賞。
- ・松阪教会：平和の祈り マリア様の祈り。
- ・伊勢教会：平和の鐘を鳴らす。
- ・上野教会：広島・長崎原爆投下時間に鐘を鳴らす。
終戦記念日にも鐘を鳴らし聖母被昇天のミサ後
”私たちの平和”について分かち合い。
- ・名張教会：”エコと平和”について分かち合い。

(2) 多文化共生共同体

- ・津教会：各言語のミサが有り各コミュニティでの交わり有り
今後、国際ミサをする提案有り。
フィリピンコミュニティ代表のコメント
津教会の受け入れが良く、何を行っても信頼して頂いている。
コミュニティの方で、全言語のミサで侍者を行っている。
- ・久居教会：キリストの聖体の日にブラジル共同体と一緒にパーティーを実施。
- ・名張教会：月に一度国際ミサを実施。ミサー週間前には朗読
共同祈願の箇所を確認
聖歌は聖歌隊と各コミュニティと打ち合わせを行い練習
- ・上野教会：各言語のミサが有り各コミュニティでの交わり有り
国際ミサをもう少し増やしていきたい。

(3) 子供達の信仰教育

①春の中高生黙想会 サマーキャンプ

- ・春の中高生の黙想会実施 3/4 名張教会で実施
テーマ：“さあ、出掛けよう！ 手を繋いで 心をつないで”
- ・サマーキャンプを7/8～7/9実施 四日市サレジオ志願院等使用
テーマ：“さあ、出掛けよう！ 手を繋いで 心をつないで”

②堅信式を松阪教会と上野教会で実施

- ・松阪教会で津・久居・松阪・伊勢教会合同の堅信式を10/29に実施
- ・上野教会で名張・上野教会合同の堅信式を11/19に実施

③侍者研修（教区、ブロックでも実施）

- ・南部ブロック侍者会研修会 9/9 松阪教会で実施

④教会学校担当者研修会（教区）

- ・8/26土曜日 河原町教会で実施

⑤教会学校担当者黙想会

- ・黙想会から研修会へ変更（黙想会計画中）

(4) 信仰を深める生涯教育

①2022年待降節から始まる新しいミサ式次第の変更箇所勉強会

- ・各教会で工夫しながら実施済み。
例 津教会・上野教会：プロジェクターでスクリーンに
新しいミサ式次第を映し出し対応。

②典礼聖歌・答唱詩編の研修、新しい賛歌の練習

- ・第3日曜日Pm1：30より津教会にて行う予定。
- ・名張教会：先に聖歌隊が慣れ、9月に入り、ミサ前に参加と一緒に練習

③黙想会

- ・各教会にて実施
例：ホルヘ神父様 3/19 名張教会

④シノドスの質問に対する分かちあい。

- ・2023年 司教年頭書簡”わたしのシノダリティを創ろう”各教会にて実施
例：名張教会 御御堂の土足にするか否か。
献堂60周年をどのように祝うかの分かち合いを持ちました。